

輝

その先へ
Leap ahead

第36号 2010. 8月

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 北口智明 編集責任者：岩田 剛 36期総務委員会 印刷所：東京印刷株式会社

雄飛

「輝」

人はどの場面で「輝」を放つのだろう。

人は何かに感動し夢と希望を持つことで意欲を生み出す。そしてそれに近づこうと努力を惜しむことをしない。

結果を恐れず自分自身で考え目標を定め行動にうつす。

目の前に立ちほだかる問題にも背をむけることなく不可能だと思ふことでも可能にするため

一生懸命前へ進もうとする。

そして必ず明るい未来「その先」が発見できる。

人は夢に向かった瞬間から「輝」始める。



鳥取県西部中小企業青年中央会
第36期会長 北口 智明

ご挨拶

鳥取県西部中小企業青年中央会 第36期会長を務めさせていただきます、北口智明でございます。どうぞ宜しくお願い致します。

昨年度、当会は35周年記念事業を無事終えることが出来ました。これもひとえにOBの皆様をはじめとする当会関係者の皆様のご尽力のお陰だと心より感謝申し上げます。

そして平成22年度通常総会懇親会にはご来賓並びにOB会の皆様におかれましては、大変ご多忙中にも関わらず、ご臨席賜りまして誠に有難うございました。

現在先行きの見えない暗い環境の下、我々地域のリーダー自らが「輝」を放ち、地域を明るく照らして行きたい。そして「その先」にある可能性を発見し、明るい未来その先を見据えた、新たな行動をして行こうといった思いから、

今年度のスローガンを「輝」

テーマ「その先へ」～Leap ahead～と掲げさせていただきます。

36期が新たなスタートを切るにあたり、諸先輩方が築き上げて来られた中央会魂を今後も継承しながら、今の時代に合った新たな取り組みを始め、成果に結びつける活動をして行きたいと考えます。

英知・友愛・団結の精神のもと、西部青年中央会会員が一丸となり、自らが成長する気持ちを忘れる事無く、質実剛健な活動になるよう邁進してまいります。

会員の皆様はもちろんOBの皆様のご支援をいただきながら、西部青年中央会が地域から信頼される素晴らしい会にしていけるよう努力してまいります。

一年間 宜しくお願いいたします。

専務理事・副会長・委員長ごあいさつ

健康委員会担当

専務理事 手島武司



本年度専務理事を拝命いたしました。クーリ工宅配サービスの手島武司です。本年度のテーマは「輝(かがやき)」ということで、35期のテーマ「躍動人」で躍動した活動を磨きをかけ、輝かせるための年度と思い1年間活動してまいります。北口会長から指示いただいている専務理事の任務は「専務理事職の確立」です。専務理事という職務は、今期で3期目、わざわざ専務理事ポストをつくった意味を考えながら任務に徹していく覚悟です。そして、担当委員会は今川委員長の「健康委員会」。委員長の中で最年少の委員長を最高齢の私が担当することで、心に決めていることは、「でしゃばり過ぎない」委員長の思いを形にする事に専念し、委員長色いっぱい委員会を作る助けをする覚悟です。どうか皆さん1年間よろしくお願いいたします。

ビジネスメディア委員会担当

副会長 小川敦弘



第36期副会長を拝命いたしました小川敦弘です。経験の浅い若輩者ですが、昨年に引き続き中央会の運営に携わらせていただき、自分自身とても貴重な体験をさせていただく事に感謝いたします。

今年度、北口会長の掲げられましたスローガン「輝」、テーマ「その先へ・Leap ahead」。単年度と限られた期間の中ですが、会長の想いを理解し具現化できるよう、精一杯努力して参ります。さらに今期は会長より、「商売」というキーワードを頂いています。

担当します委員会は、「商売」を主な活動内容とするビジネスメディア委員会です。経験豊富な桑本委員長・委員会メンバーと共に、会員企業に利益をもたらせる手法・仕組みを勉強し、個々の企業に役立てるよう、そして「一年間活動して良かった」と委員会メンバー全員で喜べるよう一生懸命活動して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

スポーツ振興委員会担当

副会長 森脇哲雄



第36期副会長を務めさせていただきます森脇です。私事になりますが、早いもので今期入会10年目を迎えます。その節目の年に、大役を仰せつかる事になり、身の引き締まる思いが致しております。

第36期北口会長の思いを形にすべく微力を尽くす所存でございますので、関係各位並びに会員皆様のご協力、よろしくお願いいたします。

尚、担当いたしますスポーツ振興委員会では、会員拡大の任を兼務いたします。今期は20名の新入会員獲得を目標と致しておりますので、合わせまして皆様のご協力よろしくお願いいたします。



健康委員会 委員長 今川圭一

今年度、健康委員会委員長を務めさせていただきました今川です。青年中央会に入会し今期で6期目となりますが、このような大役をいただいて正直なところ、「私みたいな若い人間が、先輩ばかりおられる委員会メンバーの中でうまくやっていけるのだろうか?」とか、「きちんとした委員会方針を組み、それを実現できるのだろうか?」などという不安ばかりが頭を過っていました。しかし、ある出来事をきっかけに、「偉大な

先輩会員がたくさんおられる委員会だからこそ、御指導、御鞭撻があり、皆さんに応援頂き、後押ししていただける!」という、ポジティブな考え方になれました。36期北口会長のもと、「自分らしさを忘れずに」を自らのテーマとし、諸先輩方の行われた数々の活動に一步でも近づけるよう、努力、精進していきますので、皆様、今年1年どうぞ宜しくお願い致します。



スポーツ振興委員会 委員長 向井智之

今年度、北口会長のもと、スポーツ振興委員会委員長を務めさせていただくことになりました向井智之です。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

今日地域振興をうたう際に、スポーツはとても深い結びつきがあると考えられます。そのスポーツも、「見るスポーツ」、「するスポーツ」、「支えるスポーツ」など様々な係わり合いがもたれていますが、当委員会では「見るスポーツ」に注目して活動していきたいと考えています。この厳しい社会情勢の中、混迷を極める現

代社会において明るい光を照らすのに、スポーツが与える影響は非常に高いのではないのでしょうか。私たちの住むこの地域にはガイナレ鳥取、来シーズンよりbjリーグ参入の島根ササノオマジックとプロスポーツチームが2つも存在します。これらのプロスポーツを活用した地域振興を目的に委員会メンバーと共に楽しんで1年間活動して行きたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。



政治行政委員会 委員長 久保田 賢

第36期政治行政委員会委員長を拝命いたしました久保田賢です。伝統があり、真面目で重く、堅い印象を持っていた委員会を担当することになり、大変なプレッシャーを感じております。このプレッシャーを良い意味でのバネにし、委員会活動を行っていきたく

思います。

今期、北口会長が掲げられたスローガンは「輝」ということで、加齢により自然に輝いていく自らの頭以上に、自分自身を内面から磨き、輝く努力をいたします。1年間どうぞご支援のほどよろしくお願い致します。

副会長・委員長ごあいさつ

総務委員会担当

副会長 岩田 剛



第36期北口年度、副会長を拝命いたしました岩田剛です。担当は総務委員会です。どうぞ宜しくお願いいたします。昨年度35周年を迎え、これから「その先へ」向かって、新たな一歩を踏み出す大切な時期に副会長の大役を仰せつかり、身の引き締まる思いであります。

最近、メール・ブログ・ツイッターなどパソコン上での情報量の多さ、それをただ無機質に処理している自分にふと気づきます。パソコンやメールの無い時代の青年中央会。食事の有無の把握にもご苦労があったと聞きます。会員数も200名を超え、例会会場を探すのさえ大変だったともお聞きしました。

今期、私が大切にしていきたいことは、常に泥臭く、手に汗をかき、顔をつき合わせて議論し続けることでもあります。青年中央会にとって委員会の活動こそが生命線であり、それをまとめ上げる竹ノ内委員長のサポートを全身全霊で行ってまいります。1年間どうぞ宜しくお願い申し上げます。

政治行政委員会担当

副会長 渡辺一徳



今年度副会長を務めさせていただきます、渡辺一徳です。昨年度は総務委員会を担当させていただきましたが、役職が専務理事ということもあり、委員会を担当するという意味では同じですが、今期は最初から少し感覚が違うな、というのが実感です。

担当は政治行政委員会です。入会して12年目を迎えますが、政治行政委員会は初めてです。西部青年中央会では最も歴史ある委員会の一つ、でもあります政治行政委員会を担当させて頂くということで、重圧もありますがそれ以上に期待や楽しみもあります。

委員長や委員会メンバーのやってみたい事を、北口会長の方針と照らし合わせながら最大限叶えられるよう、精一杯フォローしてこの中間管理職を全うして行きます。1年間どうぞよろしくお願い致します。

輝委員会担当

副会長 後藤太良



36期副会長を務めさせていただきます、後藤太良です。平成12年2月に会に入会し、まさか副会長という大役を命ぜられるとは思いませんでした。わたしには学もありませんし、知識もありません。正直誇れるものがほとんどありませんが、とにかく真剣にそしてがむしゃらに一年間がんばりたいと思っております。皆様よろしくお願ひいたします。

今期のスローガンは「輝」。担当する委員会は輝委員会です。入会歴の浅い会員が中心に構成されていますが、3年後、5年後、または10年後に委員会メンバーが会の中心でしっかり活躍していただけるよう浅中委員長としっかり委員会活動をしていきたいと思っております。そして北口会長を全力で支えていきます。



ビジネスメディア委員会 委員長 桑本功一

「中央会に入ったら仕事があると思うな」と、この頃よく耳にしますが、当委員会では“直接的な利益”の手法を模索します。

人から与えられるのではなく、自分たちで考え、協力し、見つけ出す。これこそが中央会の意義だと思います。また、デジタルに走りがちな昨今のビジネスですが、仕事の基本は“人と人のつながり”です。デジタルの中にどう人間関係を築いていけるのか、リニューアルされた中央会HPやMixi、ブログを通し

てデジタルとアナログを融合した新しいビジネスを作りたいと考えています。その他、ビジネスに大切なスピード感も大事にしたい。せつかくの情報、生きているうちに届けて少しでも役に立てたい。一年がかりで何かするのではなく、随時生きた情報を提供して商売につなげていきたいと思ひます。

一年間は短いですが、がんばりますのでよろしくお願い致します。



輝委員会 委員長 浅中雅彦

第36期輝委員会の委員長を務めさせていただきます浅中雅彦です。どうぞよろしくお願い致します。当委員会はベテラン会員と新入会員で構成されており、新入会員が中央会の歴史・仕組み・活動の指針を学ぶことを目的としています。まずは原点に立ち返り先輩方が築かれた中央会魂を学び、その中から時代にあった新たな可能性を見出していきたくと考

えます。自らが輝きを放つためには会員同士がお互いに刺激し合い、磨きをかける必要があると考え、委員会のテーマを「学ぶ 切磋琢磨」といたしました。当委員会の名称は第36期のスローガンと同じ「輝」です。プレッシャーもありますが、委員会名に恥じぬよう1年間輝き続けていきたいと思ひます。



総務委員会 委員長 竹ノ内賢一郎

第36期総務委員長を拝命いたしました竹ノ内賢一郎です。本年度の総務委員会のテーマは『継承と成長』といたしました。歴史ある中央会の活動を今一度、諸先輩方にご指導頂きながら、委員会メンバー、又、私自身成長を成し遂げる為に委員会活動をしていきたく思ひます。具体的な活動については、

従来の総務委員会活動に加え、雄飛・ハンサムの発行も担当させていただきます。それぞれの活動を通して、北口会長が掲げられた年間スローガンである、『輝』を放ち、メンバーがその先へステップアップできるように、精一杯頑張つて参ります。1年間、どうぞ宜しくお願いいたします。



会計担当 理事 横山友樹

私は平成20年11月入会で一年半が経過しました。しかし、まだまだ中央会の活動や運営に関する知識が充分備わっているとは言えません。こうした中、会計担当理事という大役を仰せつかることになり、改めて責任の重大さを感じておりますが、お受けした以上は自身に課せられた役割をきっちりと果たす

べく、足りない知識は行動力で補ひ、会の事業活動が円滑に運営できるよう会計担当理事として尽力していきたいと考えています。

今回自分にとっても「中央会」について勉強出来るよい機会を与えていただいたと思ひます。1年間よろしくお願い致します。

平成22年度通常総会



平成22年7月15日(木) ホテルサンルート米子に於いて、平成22年度通常総会が開催された。増井会長より「会員の皆さんに支えられ、外部から『中央会は頑張っている』と声を掛けて貰い、無事に35周年の式典と事業を執り行う事が出来た。私の人生の中でかけがえの無い出来事であり、1年間の活動に対する全会員の協力に対し感謝すると共に、36期に向けた新たなスタートを今日の通常総会に於いてしっかりと検討した上で承認して頂く事を祈念したい。」と挨拶があった。続いて徳尾修一会員と福山輝展会員の2名を新入会員として迎え、会員バッジと会員手帳の授与式を行った。通常総会開催に先立ち、水直前会長を議長に推薦・選任した。議長進行の下、渡辺専務理事より第1号議案平成21年度事業報告並びに収支決算報告、第2号議案平成22年度事業計画案並びに収支予算案を議題として挙げられ、平成

22年度収支予算案に対しては、委員会費及び別途事業費の在り方について説明を求められ、意見交換後に要検討とし、満場一致の承認を得た。特別功労賞の授与では、永年に渡り当会の発展に、尽力された水康德直前会長に対し贈られた。続いて精勤賞25名、皆勤賞23名が表彰された。委員会表彰では、優秀委員会にビジネス委員会。長田委員長が「全員が出席し易い環境整備を心掛け、高い出席率が維持出来た。」最優秀委員会には地域ビジョン委員会。山本委員長が「松原副会長と委員会メンバーに支えられ、仕事と家庭を顧みず、1年間頑張る事が出来た。この栄誉を胸に卒会出来る事が嬉しい。」と挨拶された。以上で平成22年度通常総会は閉会し、「業」・「躍動人」の御旗を掲げた増井丸は無事帰港を果たした。



(記事:長谷川T)



卒会式

通常総会に引き続き、第35期卒会式が行われた。



冒頭に8名の卒会者の紹介があり、卒会証書・記念品・花束の授与が行われた。増井会長から祝辞として「ご卒会おめでとうございます。青年中央会で活動してきた意義、精神をもってこれからは、会社の発展にご尽力いただきたい。そして、この地域を一緒に盛り上げて行く企業人として青年として同志として引き続きご指導・ご鞭撻・お付き合いをお願いいたします。」と述べられた。

続いて、卒会者を代表して山本竜男新OBより、増井会長に記念品が贈られた。



最後に山本徹新OBより「中央会に入らなければ出会うことのなかった人に出会い、一緒に学び飲み食いをして仲間になった事が一生の財産になりました。現役の皆さんは、36期もスタートしています。ひとりひとりが光り輝く活動をしていただき、仲間をどんどん増や



してほしいと願っています。本日は、盛大な卒会式を開いていただき、有難うございました。」と挨拶があり、卒会式は閉会となった。

卒会者の皆様、ご卒会おめでとうございます。益々のご活躍を会員一同お祈りいたします。(記事:門脇)



懇親会

通常総会・卒会式に続き、多数のご来賓・OB会員にご出席いただき、懇親会が開催された。



第36期北口会長が、今年度のスローガン「輝」について「近年、不況といわれるこの時代において、この地域の経済は先が見えない状況である。昔と比べ人のふれあいやコミュニケーションが少なくなり、人間関係が良くない状況において、我々青年経済人として何を考え、どう行動するか、そして輝ける社会を目指して

活動をしなければならない。」と力強く所信表明された。

来賓の挨拶の後、(株)商工組合中央金庫米子支店 西垣和弘支店長の乾杯で懇親会がスタート。各テーブルではこれからスタートする新委員会での抱負を語りあい、懇親を深めあ



鳥取県中小企業青年中央会 第36回通常総会

平成22年7月22日(木)、ホテルサンルート米子において、平成22年度通常総会が開催された。まず山根県

会長が「思い起こせば、委員長副委員長交流会をはじめ、様々な活動を行い私自信充実できました。また、勉強をさせて頂いた1年間でした。来季も、地区のみならず県の活動も両立して中央会会員として頑張ってもらいたい。」と挨拶された。



続いて、通常総会では増井副会長が議長に選出され、通常総会議案書に従い進められた。第1号議案の平成21年度事業報告並びに収支決算書承認の件が山根県会長より提出され、発表され満場一致にて承認された。第3号議案 任期満了に伴う新役員承認の件において山根県会長より次年度役員が発表され満場一致にて承認された。つづいて、第2号議案 平成22年度事業計画並びに収支予算書(案)が西根新県会長より

発表され、満場一致にて承認された。

最後に西根新会長より「山根直前県会長1年間お疲れ様でした。これから大海原に向かっていくにあたり、期待と不安が半分ずつであります。皆様と一致団結して一緒に頑張りたいと思います。」と直前県会長ならびに35期役員への労いと、今期への意気込みを挨拶され、無事通常総会は閉会となった。



続いて県総会懇親会が開催され、初めに第35期山根県会長から第36期西根県会長へ伝統の県会長の鍵が渡され、次年度へのバトンタッチが行われた。西根県会長は「維新大志、個々の企業が雇用・納税・消費・教育をできる企業団体にしていくことが社会貢献であり、英知、友愛、団結のもと東部・中部・西部の会員相互のコミュニケーションに力を入れていきたい。」と述べられ、第36期への意気込みが伝わる挨拶をされた。



次に、功労の意を込め盾の贈呈が行われ、第35期山根県会長をはじめ各副会長へ団体中央会副会長岡田端様より贈呈された。

鳥取県副知事藤井善臣様、鳥取県団体中央会副会長岡田端様から来賓のご挨拶を頂いた後、境港市長中村勝治様の乾杯のご発声で懇親会が開会された。歓談の際には、各地区の会員が積極的にコミュニケーションを図り、第36期への盛り上がり期待される光景が印象的



だった。

各地区の第36期会長より県出向・理事紹介を行い、今期のテーマ・スローガン・取り組みを発表され第36期への意気込みを表明した。続けて各理事より挨拶があり、各地区一丸となって取り組む強い姿勢を表明し、懇親会一番の盛り上がりを見せ、各会員へ強い刺激を与えた。

最後に、三井生命保険株式会社鳥取支社支社長 佐藤一磨様より中締め挨拶をいただき閉会した。第36期鳥取県中小企業青年中央会の船出としての懇親会は、各地区会員同士の良い関係つくりの場となり、西根号は無事出発した。

(記事：中村友)



う場面が多く見られ、OB会員との昔話に花が咲く姿も多く見られた。

歓談を挟み、卒会された新OB会員の紹介、トライアスロンの壮行会、新入会員の紹介と続いた。

新OB会員の紹介では、各々の方が現役会員への今後のメッセージとして中央会在籍中の思い出を語られた。恒例のトライアスロン壮行会では、佐々木団長率いる応援団が登場し大会出場を3日後に控えた横山会員にエールが送られた。そして熱気も冷めやらぬまま新入会員の紹介へと続き、サッカーのワールドカップ選手紹介に扮した入場で会場は盛り上がりを見せた。

中締めは新日本海新聞社西部本社代表 寺谷寛氏にご挨拶をいただき、最後は卒会者を1人ずつ胴上げしてお送りした。

懇親会は大盛況のうちに幕を閉じ、西部青年中央会第36期北口年度がスタートした。



(記事：岩垣)



「全日本トライアスロン皆生大会が終って」



横山友樹会員

初めて参加した一昨年は目標タイム12時間を25分オーバー。2回目の昨年は12時間以内のゴールを目前に残り4キロ地点で大雨により中止。今年3回目の出場です。3回やったらもういいかなあ〜という思いもあり、必ず12時間以内にゴールして、自身の皆生トライアスロン挑戦にきっちりカタをつけるつもりで臨んだ今大会…。

「ダメ！全然ダメ！！」そして、「このままじゃ終れない！！！」というのが今の気持ちです。やってる時は、あほんとエラくて「もう止めた。これが最後。」と何度も思ったのに…。

終って2、3日も経つとエラかったことなどすっかり忘れてしまい、惨々な結果と不甲斐ない自分に反省しきりです。そして来年こそは、きっちりカタをつけて再来年の大会ではASで太鼓を叩いてたいと思います。

最後になりましたが、大会当日は真夏の太陽が照りつけるなか熱いご声援を頂き有難うございました。特にラン途中、幾度も中央会メンバーに出会い、そのたび「ガンバレ！」と励まして頂いたことは、ゴールへと向う気持ちを力強く後押ししてくれました。本当に有難うございました。

Kaike Triathlon

新入会員 トライアスロンに参加して

volunteer

野口健太郎

昨年入会して初めてのトライアスロンのボランティアに初参加させていただきました。

初めての経験で戸惑うこともありましたが、色々な人たちに協力していただいて無事に終わることができたと思います。

スタート前の選手の方々の緊張感や雰囲気は普段では味わえない独特なものでした。

一生懸命競技に取り組む選手の方々の皆さんを目の当たりにして、その姿に感動し、さらに気持ち良く競技に集中していただけるようにとさらに声援を送りました。

こんなにも多くのスタッフやボランティアの方々を支えられて皆生トライアスロンは開催・運営されているのだという事に驚きました。

大きな感動と勇気を貰える大変貴重な体験でした。皆様、暑い中お疲れ様でした。

千石正信

トライアスロン関係者の皆様本当にお疲れ様でした。私は今回ASの担当として参加させて頂きました。前の職場でもASに参加したことがありましたが、最初から最後まで参加したのは初めてで、今までやっていたことはほんの一部に過ぎなかったんだと痛感しました。

ある選手が、ユニフォームに黒いリボンをつけて走っていました。おそらく誰か亡くなられた方の思いを胸に走っておられたんだと思います。おそらく全ての選手が家族の夢や、友人の思いいろんな人たちの夢や希望をその背中に背負って競技されているんだと思います。すべての選手にその思いを無事にゴールまで届けて欲しいと心をこめて、ASの仕事させて頂きました。

無事に夢を成し遂げた選手、不本意な結果に終わった選手、色々あると思いますが、私はそんな選手達の夢や希望を無事にゴールに届けられるよう、来年も全力でお手伝いしたいと思います。

秋里武信

この度、入会して初めてトライアスロンのボランティアに参加させていただきました。当日は朝6:00から夜10:30頃までの長時間、猛暑の中、大変な部分もありました。が、朝の壮行会では応援団の団長を任せて頂き、緊張しながらでしたが、まずまずにエールを送ることができました。

ASでは、限界に挑戦されている選手の方々から多くの『ありがとう』を頂きました。最後の東山陸上競技場で各部長の挨拶、一本締めの際には、自分自身、達成感に満ち溢れておりました。終わってみると、一日で数多くの感動体験ができたように思います。疲れはしましたが、中央会の会員として参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。

稲田 清

最高気温34.6度。大会数日前は米子が日本一暑くなり、熱気は十分に醸成されていた。今回、新入会員として初めての全日本トライアスロン皆生大会にボランティアとして参加した。朝6時に集合。壮行会をスタート地点の海岸脇で行った。出場する選手たちに熱いエールを送った。そしてタニシASへ。先輩会員からの確かな指示のもとテント設営、ドリンクやフルーツの準備、備品の配置などを行った。時刻が13時となり次々と選手がASへ。小・中学生ボランティアと共に水をかけたり、声援を送ったりと右へ左へ。競技終了後、人海戦術でゴミが落ちていないかライトを当てながら這いつくばる様にして探す作業を最後に終え、東山へ。そこでは大会に携わった会員が集結していた。トライアスロンと中央会との強く深い歴史を感じた。トライアスロンの歴史はボランティアの歴史とも言えることを、真っ黒になった肌で感じ取った一日であった。



第30回 全日本トライアスロン皆生大会

スタート前壮行会

昨年とは違ってかわり、好天に恵まれた午前6時。他の選手の方々が続々と砂浜へ集合する中、中央会から出陣する選手の方々を元気付けようと、トライアスロン壮行会が行われました。今年は中部から選手が2名、団体が2チーム、西部から横山会員・山本博義OBの2名と、総勢10名が選手として参加されました。秋里会員が音頭をとり、徳尾会員が太鼓を担当し壮行会が行われました。中部の選手の方々から応援を始めましたが、不慣れなためなかなか音も揃わず、そんな応援も徐々に息があってくるようになり、

山本OBが終わり、昨年無念の競技中止となった横山会員の応援の時には見事に息があった応援が出来ました。「なんとか今年はゴールして欲しい！」そんな会員の思いのこもった応援でした。午前6時という早い時間、また、太陽の日差しが強い中でしたが、新入会員を中心に、数多くの会員が集まりました。これから出発する選手の方々に、「いってらっしゃい!!」「がんばってこいよ!!」といった言葉をかけていたり、日差し以上に熱いスタート前壮行会でした。
(記事:佐藤)



第30回全日本トライアスロン皆生大会を終えて



実行委員長
水 康徳

今年のトライアスロン実行委員長をさせて頂きました、水です。当会のトライアスロン実行委員会は近年、『オール中央会』をスローガンに会員全員でこの歴史ある全日本トライアスロン皆生大会に参加することを目的とし、毎年組織されています。実行委員会では当会会員への参加意識の啓発活動と参加会員の配属の調整を行っています。

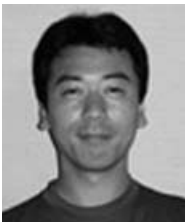
今年は昨年のドシャ降りから打ってかわって天候に恵まれ、快晴の中、大会が行われました。厳しい暑さの日でしたが、会員が事故や熱中症等で倒れることもなく、無事一日を終えられたことは幸いだったと思います。新入会員の皆さんには朝の壮行会から、最後の撤収作業までフル活動して頂きました。皆さん、お疲れ様でした。

今回、実行委員長をさせて頂きましたが、当会の実行委員会も従来のやり方から脱却し、各部を見直し、再構築する必要性を感じました。この点は次回に期待しています。

準備期間から数えると半年以上この大会に関っている会員もいます。また、様々な作業の応援に参加してくれた会員もいます。当日一生懸命ボランティアをしてくれた会員もいます。そんな参加してくれたすべての会員の皆さんに心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

そして来年も・・・トライアスロンをよろしく。

マラソン部長 桑本功一



初めてのマラソン部長。五里霧中の中、精一杯やったが、悔いの多く残る大会だった。そんな中、逆に中央会の横のつながりを再発見できた大会でもあった。

何事も予定通り物事が運ぶわけではないが、今年は準備不足から例年よりも問題が多かったと思う。しかし、問題に直面した時、管轄外と切り捨ててしまわず、AS部もボランティア部も、何とかしてやろうと協力してくれたので致命的にならずにすんだと思う。また、マラソン部の仲間からの「みんなでなんとかしゃいや。」の言葉に、本当に中央会でよかったと思った。

最後の撤収ではマラソン部の底力を見た。22時半ギリギリまで撤収作業に当たってくれたみんな、本当にありがとう。

また、翌日AS清掃で全ASを廻った時、御世辞抜きでタニシASが群を抜いてきれいだったことにも感謝したい。通常、梅干しやスイカの種が多少なり散乱しているものだが、聞くと現場検証レベルのゴミ拾いをしてくれたのだとか。

あっという間の30回大会、選手とほとんど会話することなく終わってしまったのが非常に残念だけれど、色々な人に支えられながらこの大会を終えられたことにまずは感謝したいと思う。

A S 部長 松本誠二



「松本さんは、中央会でAS一筋何年なんですか？」今年のトライアスロンのASテントで、ある方から質問をされました。

意外に思われるのかもしれませんが、私はASに配属になってまだ今年で3年しか経っていないのですよ。日頃の態度がよっぽど尊大なのでしょうね。記憶をたどれば、入会した最初の年に、中央会とトライアスロンの関係が今1つ分ならず、当日は新婚ホヤホヤの妻と北海道旅行を楽しんだりしていたわけです。

そんな私ではありますが、AS部に配属されてからは先輩から実に多くの事を教えていただき、今年もOB・現役会員のみなさんに支えられてASの運営ができました。特に、新入会員のみなさんは、よく意味も分からないまま前日・当日と本当によく動いていただきました。心から誇りに思った次第です。末筆になってしまいましたが、一般のボランティアの方々をはじめ、当日あの灼熱の中、気持ちのいい笑顔を提供してくれた、すべての方に感謝を申し上げます。また、来年もお会いしましょう！

ボランティア部長 土岐哲己



朝から照りつける太陽。ボランティアさん達との暑い一日が始まりました。昨年、気象警報による大会最中の競技中止により留年をさせて頂いたことで、ボランティア部の運営に昨年より慣れはあったのですが、それ以上にボランティア部員のみんなは、通常の作業をこなしながらも、直面する問題に対し考え、迅速な行動で対処してくれました。一般のサポーターさんも混在するボランティア部ですが、一致団結して前に進む様は頼もしいばかりでした。本大会は猛暑の中での開催でしたが、本部管轄2,300人のボランティアの皆さんが無事にボランティアを終えていただいたことに安堵しているところです。また、マラソン部の皆さんやAS部の皆さんにもご協力をいただき、関係するエードステーションの運営を問題なく終えていただいたことに感謝いたします。最後に、こんな部長を支えてくださった全ての皆さん、本当にありがとうございました。

8月役員会報告

8月定例役員会が平成22年8月2日(月)、米子食品会館にて開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。

- ・7月総会・卒会式、懇親会の件
- ・8月例会の件
- ・その他

※なお、詳細については各委員長までご参照ください。

8月例会案内

と き：平成22年8月17日(火) 受付18:00～
場 所：米子全日空ホテル 2F 飛鳥西中の間
内 容：講演会テーマ「ビール業界の歴史と変遷
～ビール戦争～」

担 当：役員(委員長・副委員長)